

## 令和5年度 第1回 足立区地域包括ケアシステム推進会議

日時:令和5年6月14日(木)午後2時から  
会場:足立区役所 中央館8階 特別会議室

### 1 議題

- (1) 令和5年度Zoomでオンライン体操教室の本格実施について P 1
- (2) 令和5年度ぱく増し事業の取組について P 3
- (3) 令和5年度地域包括支援センターの業務委託評価の実施について P 4

### 2 報告

- (1) 令和4年度介護予防事業の実施結果について P 6
- (2) 令和4年度食べてフレイル予防事業の実施結果について P10
- (3) 令和4年度医療・介護連携研修の実施結果について P12
- (4) 令和4年度認知症施策の実施結果について P14
- (5) 令和4年度認知症月間の取組結果について P16
- (6) あたまの健康度測定（認知症検診推進事業）の進捗状況と今後について P19
- (7) 地域包括支援センター支援システムの本稼働の開始について P21
- (8) エンディングノート（じぶんノート）の作成について P22

以上

## 足立区地域包括ケアシステム推進会議委員名簿

「医・介」	＝	医療・介護連携推進部会
「総合」	＝	介護予防・日常生活支援総合事業推進部会
「認知」	＝	認知症ケア推進部会
「住まい」	＝	高齢者の住まいの事業推進部会
「運協」	＝	地域包括支援センター運営協議部会

「長」＝部会長 「副」＝副部会長 「○」＝部会員

※ 敬称略、順不同

令和5年6月1日現在

番号	役職	氏名	フリガナ	選出団体名	所属における役職等	部会					
						医・介	総合	認知	住まい	運協	
1	会長	酒井 雅男	カイ マサオ	学識経験者	弁護士				長		
2	副会長	白川 泰之	シラカ ヤスキ	学識経験者	日本大学 教授				副		
3	副会長	山中 崇	ヤマナカ タカシ	学識経験者	東京大学 教授	長					
4	副会長	永田 久美子	ナガタ クミコ	学識経験者	認知症介護研究・研修東京センター副センター長			副			
5	副会長	栗田 圭一	アヲタ シュイチ	学識経験者	東京都健康長寿医療センター研究所副所長			長			
6	副会長	大口 達也	オウグチ タツヤ	学識経験者	前 高崎健康福祉大学 講師					長	
7	委員	山本 亘	ヤマモト ワタル	足立区医師会	副会長	副					
8	委員	賀川 幸英	カガリ ユキヒデ	足立区医師会	副会長		副			副	
9	委員	久松 正美	ヒサマツ マサミ	足立区医師会	理事			○			
10	委員	花田 豊實	ハナダ トヨミ	足立区歯科医師会	理事	○				○	
11	委員	鈴木 康大	スズキ ヤスヒロ	足立区薬剤師会	理事	○				○	
12	委員	和田 庸右	ワタ ユウスケ	東京都柔道整復師会 足立支部	副支部長					○	
13	委員	鵜沢 隆	ウサヅリ リュウ	足立区介護サービス事業者 連絡協議会	会長（居宅介護支援部会長）	○				○	
14	委員	塩谷 総吾	シオタニ ソウゴ	足立区介護サービス事業者 連絡協議会	副会長（訪問介護部会長）				○		
15	委員	羽田 雅代	ハタ マサヨ	足立区介護サービス事業者 連絡協議会	副会長（訪問看護部会長）	○					
16	委員	伊藤 好美	イトウ コミ	足立区介護サービス事業者 連絡協議会	副会長（通所部会長）		○				
17	委員	小島 直樹	コジマ ナキ	足立区高齢者福祉施設 連絡協議会	会長			○			
18	委員	君成田 健一	キミナリタ ケンイチ	介護老人保健施設	しらさぎ 事務長			○			
19	委員	青田 明子	アヲタ アキコ	東京都宅地建物取引業協会 第三ブロック足立区支部	幹事				○		
20	委員	鮎川 博司	アユカワ ヒロシ	全日本不動産協会東京都本部 城東第一支部	副支部長				○		
21	委員	松井 敏史	マツイ トシフミ	認知症疾患医療センター	センター長			○			
22	委員	大竹 吉男	オオタケ ヨシオ	足立区ボランティア連合会	会長		○				
23	委員	石引 力也	イシヒキ リキヤ	足立区シルバー人材センター	理事		○				
24	委員	中村 輝夫	ナカムラ テルオ	足立区友愛クラブ連合会	ねんりん編集委員長		○			○	
25	委員	鈴木 由美子	スズキ ユミコ	足立区民生・児童委員協議会	第七合同花畑地区会長				○	○	
26	委員	村岡 孝次	ムラカミ コウジ	足立区町会・自治会連合会	厚生部副部長			○		○	
27	委員	結城 宣博	ユキキ ノブヒロ	足立区社会福祉協議会	地域福祉部長	○				○	
28	委員	吉清 健太郎	ヨシキヨ ケンタロウ	足立区社会福祉協議会 基幹地域包括支援センター	地域福祉課長		長				
29	委員	依田 保	ヨダ タモツ	区職員	地域のちから推進部長						
30	委員	中村 明慶	ナカムラ アキヨシ	区職員	福祉部長（高齢者施策推進室長）						
31	委員	馬場 優子	バハ ユウコ	区職員	衛生部長						
32	委員	田中 靖夫	タナカ ヤスオ	区職員	建築室長						
33	委員	金澤 大輔	カナザワ タイスケ	区職員	建築室住宅課長				○		
注) 新任の方には、氏名に下線を引いています。						(各部会委員人数)	7	6	7	7	10

令和5年6月14日

件名	令和5年度Zoomでオンライン体操教室の本格実施について												
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課												
内容	<p>令和4年度に試行した標記事業の、令和5年度本格実施にあたり、実施内容について報告する。</p> <p><b>1 目的</b></p> <p>(1) 感染症や悪天候等で集合が困難な場合でも、自宅で介護予防事業に参加できる機会を創出する。</p> <p>(2) スマートフォンやタブレット等の使い方を学び、高齢者自身の生活に取り入れ、コミュニケーションの幅を広げる。</p> <p>(3) スマートフォンを使い、自ら情報を取得できるようになり、緊急時に活用できるようにする。</p> <p><b>2 令和4年度実施結果</b></p> <table border="1" data-bbox="456 927 1426 1328"> <thead> <tr> <th>事業名</th> <th>内容</th> <th>実施回数</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事前説明会</td> <td>① Zoomの設定方法及び基本機能の説明 ② 説明会の場で、実際のZoom体験</td> <td>1回60分 計5回開催</td> <td>19名</td> </tr> <tr> <td>Zoomでオンライン体操教室</td> <td>座位で行うストレッチや筋力トレーニング</td> <td>1回30分 計6回開催</td> <td>44名 (延べ)</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>3 令和5年度実施内容</b></p> <p>令和4年度に引き続き、Zoomだけではなく、スマートフォン等の操作が苦手な高齢者のための、対面型の教室を実施する。</p> <p>(1) Zoomでの開催</p> <p>ア Zoomでオンライン体操教室</p> <p>(ア) 内容</p> <p>① 毎週水曜日、同じ時間で開催 (14時～14時30分)</p> <p>② 椅子を使った座位のみの体操</p> <p>③ 他の介護予防事業の紹介</p> <p>(イ) 開催時間</p> <p>1回30分</p> <p>(ウ) 定員</p> <p>20名 (50名まで参加可)</p> <p>(エ) 会場</p> <p>Zoom内</p> <p>(2) 対面型での開催</p> <p>ア Zoomでオンライン体操教室事前説明会</p>	事業名	内容	実施回数	参加者数	事前説明会	① Zoomの設定方法及び基本機能の説明 ② 説明会の場で、実際のZoom体験	1回60分 計5回開催	19名	Zoomでオンライン体操教室	座位で行うストレッチや筋力トレーニング	1回30分 計6回開催	44名 (延べ)
事業名	内容	実施回数	参加者数										
事前説明会	① Zoomの設定方法及び基本機能の説明 ② 説明会の場で、実際のZoom体験	1回60分 計5回開催	19名										
Zoomでオンライン体操教室	座位で行うストレッチや筋力トレーニング	1回30分 計6回開催	44名 (延べ)										

(ア) 内容

- ① Z o o mへスムーズに入室できるようになるための、  
端末操作の講座
- ② 説明会の会場で、実際にZ o o mへの接続を体験
- ③ 委託事業者が用意するポータブルW i - F iにより、  
参加者は通信料無料
- ④ 毎月、区内5カ所ずつの会場で開催

(イ) 開催時間

1回60分

イ はじめてのスマホ教室

(ア) 内容

【体験コース】

- ① スマートフォンを使った脳トレやe-スポーツ（囲碁、  
将棋等）、Y o u T u b e鑑賞等の体験教室

【基礎コース】

- ① W i - F iの接続方法やL I N Eの使い方、QRコード  
の読み取り方法、リスク管理など、スマートフォンの基  
本的な知識・操作の講座
- ② 区の公式L I N Eアカウント、Aメール、防災アプリ  
の登録

(イ) 開催時間

体験・基礎どちらも120分

ウ 対面型の定員及び会場

(ア) 定員

対面方式の教室は全て20名

(イ) 会場

対面方式の教室は全て、下記会場にて実施。

- ① 地域学習センター
- ② 千住西複合施設
- ③ 総合ボランティアセンター
- ④ 勤労福祉会館

#### 4 今後の方針

- (1) 高齢団体との周知・案内の連携を始める。
- (2) 参加者アンケートを実施し、事業の効果測定及びその他の介護予  
防事業への連動につなげる。

件 名	令和 5 年度ばく増し事業の取組について
所 管 部 課	福祉部 高齢施策推進室 地域包括ケア推進課
内 容	<p>65歳以上の高齢者が体重や筋肉を維持して元気に過ごせるよう、たんぱく質を多く含む食品を普段の食事に増して摂る「65歳からのたんぱく増し生活～肉も魚も食べよう～」事業、通称「ばく増し」を令和5年1月から推進。令和5年度の取組について報告する。</p> <p><b>1 令和5年度の方針</b></p> <p>65歳以上の区民に広く「ばく増し」を周知し、令和5年はまず多くの方々が「ばく増し」のキャッチフレーズを『知る』ための普及啓発事業に力を入れる。</p> <p><b>2 事業計画</b></p> <p>(1) 地域包括支援センターや広報物による周知          地域包括支援センターの実態把握訪問時や介護予防教室等にてリーフレットを活用した普及啓発を実施。また、あだち広報に限らず、長寿医療だより、地域学習センターや図書館のミニコミ誌や掲示において「ばく増し」の普及啓発をしていく。</p> <p>(2) 民間企業、スーパー、配食サービス事業者等との連携          食品関係の事業者との連携により買い物時や広告等により「知る」機会を増やす。例えば、区内の肉卸売業者ビセラル株式会社（鹿浜1丁目）には、2月の月間に向けて協力をいただく予定。また、3月末より本屋（アリオ西新井のくまざわ書店）からの依頼にて「ばく増しコーナー」を設置中であり、食品関係以外の事業者との連携も検討していく。</p> <p>(3) 「ばく増し」レシピの発信強化による周知力向上          足立区公式キッチン「クックパッド（東京あだち食堂）」に「ばく増し」レシピを掲載し、ターゲットの拡大及び「ばく増し」レシピの普及を図る。</p>

令和5年6月14日

<p>件名</p>	<p>令和5年度地域包括支援センターの業務委託評価の実施について</p>
<p>所管部課</p>	<p>福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課</p>
<p>内容</p>	<p>地域包括支援センター（以下「ホウカツ」という。）の業務委託評価の実施について報告する。</p> <p><b>1 目的</b>                  ホウカツが、地域包括ケアシステムの中核的役割を担い、地域において求められる機能を十分に発揮するため、人員体制及び業務の状況を定期的に把握・評価する。また、その結果を踏まえ、区及び受託者が事業の質の向上のための必要な改善を図る。</p> <p><b>2 根拠法令等</b>                  (1) 定期的な点検や評価                  介護保険法第115条の46第4項、第9項                  (2) 評価結果の公表                  介護保険法第115条の46第10項</p> <p><b>3 実施方法等</b>                  別紙のとおり                  地域包括支援センター運営協議部会で協議する。</p> <p><b>4 評価結果</b>                  地域包括支援センター運営協議部会で審議する。</p> <p><b>5 評価結果の公表</b>                  (1) 地域包括ケアシステム推進会議に報告                  (2) 足立区ホームページに掲載                  (3) その他、事務局が必要と判断した方法で公表</p>

～ 令和4年度評価から令和5年度の計画まで ～

地域包括支援センター＝ホウカツ

**事業計画を立てる（ホウカツ）3月中旬～4月下旬**

運営方針・仕様書・評価結果（改善要求）に基づいた令和5年度事業計画書を作成

- 1 足立区と受託法人で契約を締結
- 2 地域包括ケア推進課・高齢福祉課・絆づくり担当課とホウカツで目的を共有
- 3 地域包括ケア推進課・高齢福祉課・絆づくり担当課とホウカツで契約内容の計画をヒアリング（5/26～7/5）

Plan

**事業計画を実行する（ホウカツ）**

委託契約内容を実施（10事業）

仕様書に基づいた委託業務を実施

- |                   |             |
|-------------------|-------------|
| 1 運営体制            | 6 生活支援体制整備  |
| 2 総合相談支援          | 7 認知症施策関連   |
| 3 権利擁護            | 8 地域ケア会議推進  |
| 4 包括的・継続的ケアマネジメント | 9 家族介護者支援   |
| 5 在宅医療・介護連携推進     | 10 寄り添い支援活動 |

Do

**業務改善を行う（ホウカツ）2月上旬～3月下旬**

評価結果に基づいた改善要求（運営体制や事業計画など）

Action

**履行状況を評価する（足立区）1月中旬～2月上旬**

履行状況をできるだけ数値化した項目で客観的評価を実施

Check

	不良	普通	良好
評 点	60点未満	60点以上80点未満	80点以上
該 当 数	0か所	6か所	19か所
① センター長ヒアリング	(2/6～2/9) 地域包括ケア推進課とセンター長が履行状況や取組内容を確認		—
② 評価結果ヒアリング	(3/9～3/29) 地域包括ケア推進課とセンター長等（法人の代表者等）が指摘事項を共有		
改善要求	地域包括ケア推進課からセンター長等に、評価結果に基づく各事業毎の業務内容の改善やサービスの質の向上を要求		
③ 出張研修（普通以下6か所）	(4月～12月) 基幹ホウカツと地域包括ケア推進課でホウカツに出向き改善要求に基づいた出張研修を開催		—

**自己評価（228項目・9月頃）**

①	評 価 者	ホウカツの職員	
	評 価 視 点	厚生労働省が作成したホウカツの運営マニュアル及び区の運営方針に基づき、実践の振り返り及び業務に対しての気づき	

**履行評価（15項目）**

**取組評価（235項目）**

②	評 価 者	地域包括ケア推進課、高齢福祉課、絆づくり担当課（3課6係：約30名）	
	評 価 視 点	委託仕様書の履行状況	履行状況の取組内容

**委員評価**

③	評 価 者	<ul style="list-style-type: none"> <li>運営協議部会員（学識：大口氏、区民代表：足立区友愛クラブ連合会、足立区民生・児童委員協議会、足立区町会・自治会連合会）</li> <li>区管理職（地域包括ケア推進課、高齢福祉課、介護保険課、絆づくり担当課）</li> </ul>	
	評 価 視 点	利用者目線に立ち専門的・客観的	

件 名	<b>令和 4 年度介護予防事業の実施結果について</b>																								
所 管 部 課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課																								
内 容	<p>令和 4 年度介護予防事業の主な実施結果について報告する。</p> <p><b>1 目的</b></p> <p>介護保険の要介護・要支援認定を受けていない一般高齢者及び介護に陥るリスクの高い高齢者に対して重要とされている、フレイル<sup>※1</sup>予防に必要な「運動」「栄養・口腔ケア」「社会参加」の促進に重点を置き、専門の事業者に事業を委託して実施した。</p> <p>※1 フレイルとは、加齢による筋力や心身の機能などが低下した状態。適切な介入・支援（運動、栄養・口腔、社会参加）により維持回復が可能。</p> <p><b>2 令和 4 年度実施結果</b></p> <p>(1) 地域ミニデイサービス・ふれあい遊湯う（別冊 1 2 ページ参照）</p> <p>まちのコミュニケーションの場でもある銭湯を会場に、高齢者を対象として実施するミニデイサービス。楽しみながらフレイル予防につながるレクリエーションなどを行い、高齢者が要介護状態になることを防止するために実施した。</p> <table border="1" data-bbox="454 1232 1230 1456"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2 年度</th> <th>3 年度</th> <th>4 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数 (人)</td> <td>1, 4 9 0</td> <td>1, 2 7 9</td> <td>2, 2 2 8</td> </tr> <tr> <td>実施回数 (回)</td> <td>2 3 1</td> <td>2 2 2</td> <td>3 6 6</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) はつらつ教室（別冊 7 ページ参照）</p> <p>要支援・要介護の認定を受けていない比較的元気な高齢者に対し、運動や口腔機能の向上、栄養状態の改善、閉じこもり予防を目的とした通所型介護予防教室。地域学習センター等の区施設、スポーツクラブ等の民間事業所を利用して実施した。</p> <table border="1" data-bbox="454 1758 1230 1982"> <thead> <tr> <th>項目/年度</th> <th>2 年度</th> <th>3 年度</th> <th>4 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数 (人)</td> <td>5 4 3</td> <td>5 6 6</td> <td>6 2 3</td> </tr> <tr> <td>実施回数 (回)</td> <td>1 7 7</td> <td>1 5 9</td> <td>3 1 0</td> </tr> </tbody> </table>	項目/年度	2 年度	3 年度	4 年度	参加者数 (人)	1, 4 9 0	1, 2 7 9	2, 2 2 8	実施回数 (回)	2 3 1	2 2 2	3 6 6	項目/年度	2 年度	3 年度	4 年度	参加者数 (人)	5 4 3	5 6 6	6 2 3	実施回数 (回)	1 7 7	1 5 9	3 1 0
項目/年度	2 年度	3 年度	4 年度																						
参加者数 (人)	1, 4 9 0	1, 2 7 9	2, 2 2 8																						
実施回数 (回)	2 3 1	2 2 2	3 6 6																						
項目/年度	2 年度	3 年度	4 年度																						
参加者数 (人)	5 4 3	5 6 6	6 2 3																						
実施回数 (回)	1 7 7	1 5 9	3 1 0																						



(3) はじめてのフレイル予防教室 (別冊4 ページ参照)

介護予防チェックリストにおいて、何らかの生活支援が必要と判断された高齢者に対して、地域包括支援センターによる実態調査により参加勧奨した。介護予防運動指導員・看護師・管理栄養士等が、運動や口腔機能の向上、栄養状態の改善、認知症予防などを組み合わせた総合型メニューを実施した。

※ 全12回1クールの連続講座型で開催。

※ 令和2年度、令和3年度は感染対策のため開催時間を縮小したことで2交代制が実施でき、結果としてクール数が多い。

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	566	632	702
実施回数 (クール)	67	72	61

(4) パークで筋トレ (別冊6 ページ参照)

要介護認定を受けない健康な高齢者を増やすとともに、地域の絆づくりの促進を目的として、身近な公園・広場等安全な場所にて、無理せず、誰でも気軽に参加できる、ストレッチ・ウォーキング等の運動を、年間を通じて実施した。

ア 会場

花畑公園をはじめ、区内全36カ所にて実施 (令和5年3月現在)

イ 内容

筋トレ、ストレッチ、ウォーキング、コーディネーション運動、リズム運動等を組み合わせ、1回につき約1時間実施

ウ 対象

区内在住・在勤・在学で概ね65歳以上の方

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	13,300	26,670	26,574
実施回数 (回)	560	761	796

(5) ウォーキング教室 (別冊5 ページ参照)

自ら身体活動を継続化する中で健康体力の維持・向上を目指せる、健康な高齢者を増やすことを目的として、安全で気軽に歩くことが楽しめるウォーキング教室を、年間を通じて実施した。

- ア コース  
区内を中心としたウォーキングコース
- イ 内容  
正しい歩き方のアドバイス、ウォーキング、ストレッチ体操等
- ウ 教室  
専門指導員による脚力にあわせた教室
- エ 対象  
区内在住・在勤・在学で概ね65歳以上の方

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	580	475	491
実施回数 (回)	32	30	39

(6) 高齢者体力測定会 (別冊3ページ参照)

高齢者が自身の健康状態と日頃のフレイル予防への取り組みを実感できることを目的とした体力測定会。測定内容は、握力や立ち上がり能力のテスト、最大歩幅、歩行速度の計測など、下肢筋力やバランス能力、転倒リスクの判定等に特化した内容で実施した。

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	255	425	485
実施回数 (回)	30	61	116

(7) みんなで元気アップ教室 (別冊9ページ参照)

介護予防に関する知識を深め、教室終了後参加者が自主グループとして活動できるようになることを目指した教室を実施した。

※ 全10回1クールの連続講座型で開催。

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	675	845	647
実施回数 (クール)	95	97	56

※ コロナ禍の令和2～3年度においては、自主グループ化を中止し、自宅でも一人でも取り組める体操を中心とした内容に変更。感染防止対策のため、開催時間数を縮小(60分)したことで、1会場2交代制が実施できたため、結果として参加者数が増加した。

※ 令和4年度は、自主グループ化を目指した内容に戻し、理解度を高めるため、開催時間を拡大(60分→90分)した。それにより、2交代制が減ったことで、参加者数は減少したが、グループワークやグループウォーキングの実施により、地域で介護予防に取り組む自主グループが創出できた。

(8) 元気アップサポーター養成研修（別冊10ページ参照）

介護予防に関する知識を深め、グループワークを通じて、フレイル予防の指南役を育成する教室。コロナ禍により、活動継続が困難な既存の自主グループの代表者に対して、活動継続に向けたアドバイスを中心とした内容に変更。

※ 全8回1クールの連続講座型で開催。

項目/年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	45	90
実施回数 (クール)	5	10

(9) 住区センターにおける自主的な介護予防講座

住区センターにおける自主的な介護予防に関する効果的な講座として、平成30年度から実施。内容はア～ウのいずれかのテーマで実施。

ア 身体機能や運動機能の維持・向上に資する体操や運動

令和4年度実施数 49回

イ 口腔機能の向上に資する講座

令和4年度実施数 4回

ウ 栄養に関する講座

令和4年度実施数 9回

項目/年度	2年度	3年度	4年度
参加者数 (人)	589	594	1,360
実施回数 (回)	26	29	63

### 3 今後の方針

- (1) パークで筋トレや高齢者体力測定会等、各種事業への効果的な参加を促すとともに、地域で活動する自主グループが継続してフレイル予防に取り組めるよう、区が実施する事業のグループ活動への活用を含めた、重層的な展開を進める。
- (2) フレイル予防事業全体の参加者数の増加につなげるため、周知方法を見直すほか、Aメールや区LINE公式アカウントなど、SNSを活用した情報発信を実施する。

令和 5 年 6 月 1 4 日

件 名	<b>令和 4 年度食べてフレイル予防事業の実施結果について</b>
所 管 部 課	区民部 高齢医療・年金課 区民部 国民健康保険課 衛生部 データヘルス推進課 福祉部 高齢施策推進室 地域包括ケア推進課
内 容	<p>令和 4 年度から開始した高齢者の保健事業と介護予防を一体的に実施する、「食べてフレイル※予防」事業による支援実績について報告する。</p> <p>※ フレイルとは、筋力や心身の機能などが低下した状態。適切な介入・支援（運動、栄養・口腔、社会参加）により維持回復が可能。</p> <p><b>1 事業内容</b></p> <p>低栄養予防を中心としたフレイル予防事業を個別支援と集団支援の両面から実施。</p> <p>(1) 個別支援</p> <p>令和 3 年度後期高齢者医療健診受診 4 1, 4 6 0 名中、低栄養の基準である BMI が 1 8. 5 未満、かつ 6 か月間に 2 ~ 3 kg の体重減少があると回答した 7 5 ~ 7 9 歳（要支援・要介護等除く）に対し、3 ~ 4 か月間の訪問 2 回を含む栄養相談を実施した。</p> <p>(2) 集団支援</p> <p>通いの場【住区センター 1 1 か所（綾瀬、入谷、梅島、栗原北、島根、千住柳町、中央本町、東和、西伊興、東伊興、花保）及び鹿浜いきいき館 計 1 2 会場】にて栄養講座 2 回と参加者主体の測定（体重、筋肉量、握力等）を実施した。</p> <p><b>2 実施結果</b></p> <p>(1) 個別支援</p> <p>低栄養の抽出対象者 8 2 名中、修了者 4 1 名（実施率 5 0 %）</p> <p>ア 支援修了者 4 1 名のうち、4 0 名が体重維持増加達成、3 1 名が食や生活習慣を見直す行動変容を達成。</p> <p>イ 栄養相談未実施者 3 4 名</p> <p>【内訳】</p> <p>① 栄養相談必要なし 1 6 名</p> <p>② 地域包括支援センターによる支援依頼 1 5 名</p> <p>③ 要介護認定に伴うケアマネジャーによる支援 3 名</p> <p>(2) 集団支援</p> <p>ア 栄養講座 2 3 回（参加者 5 8 2 名）測定参加者 3 5 0 名</p> <p>イ 栄養講座アンケート結果（回答者 4 6 8 名）</p> <p>(ア) フレイルの認知度 4 1 6 名【8 9 %】</p>

(イ) たんぱく質を多く含む食品（肉、魚、卵、大豆製品）の摂取頻度

① 毎食（1日3回）摂る人 172名【37%】

② 栄養講座2回参加者（83名）の毎食（1日3回）摂る割合変化 31%→41% 10ポイント上昇

### 3 支援から見えてきたこと

#### (1) 個別支援

ア 支援修了者41名は、目標値の30%を大きく上回り、低栄養のリスク者の食傾向把握が可能になった。家族の状況変化（他界や認知症等介護が必要な状態になる等）や孤食が体重減少のきっかけになりやすいという傾向が見られた。

イ 体重維持増加者の割合は98%であり、目標値の70%を上回った。また、食や生活習慣を見直す等の行動を変化させた方は76%であり、目標値の80%を若干切るものであった。今後は、目標内容を書いたメモを渡すなど可視化し、行動変容につながりやすい取り組みを検討する。

ウ 修了者へのアンケートから、区が個別訪問という手厚い支援を実施したことに、驚きと感謝の気持ちを受け取ることができた。

#### (2) 集団支援

ア 栄養講座は、簡単な調理実演を盛り込み、食材の一部である缶詰（魚の蒲焼缶詰等）や調味料（カレー味の粉末調味料等）を食教材としてお持ち帰りいただくなど、たんぱく質摂取向上のきっかけとなる講座となった。

イ 各会場での定期的な測定に多くの方が継続的に参加できるよう、意欲を高める方法を検討する。

### 4 令和5年度の事業の変更点

#### (1) 個別支援

ア 個別訪問等支援にて伝えた支援内容「情報提供書」を、本人の同意を得た上でかかりつけ医に郵送する。

イ 令和4年度修了者へフレイル予防資料及び体調等確認書類を郵送する。

#### (2) 集団支援

ア 12会場を新たに追加 計24会場（改修中は除く）

住区センター12か所（青井、弘道、江北コミュニティ、鹿浜、千住あずま、千住本町、舎人、西新井栄町、平野、保塚、南花畑、本木関原）

イ 測定（体重、筋肉量、握力）や筋肉維持の運動を盛り込む事業の事業名を「筋肉上げマッスル測定会」とし、通いの場での測定や筋力維持活動を広く周知する。

令和5年6月14日

件名	令和4年度医療・介護連携研修の実施結果について																				
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課																				
内容	<p>令和4年度の医療・介護連携研修会の実施結果について報告する。</p> <p><b>1 目的</b> 医療機関と介護事業所等の関係者が連携するための研修会を開催し、在宅医療と介護の一体的な提供を促進する。</p> <p><b>2 参加団体（9職種）</b></p> <table border="1" data-bbox="448 772 1422 1346"> <thead> <tr> <th colspan="2">団体名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>足立区医師会</td></tr> <tr><td>2</td><td>足立区歯科医師会</td></tr> <tr><td>3</td><td>足立区薬剤師会</td></tr> <tr><td>4</td><td>足立区介護サービス事業者連絡協議会</td></tr> <tr><td>5</td><td>東京都柔道整復師会足立支部</td></tr> <tr><td>6</td><td>あだちPOSネットワーク ※ POS・・・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士</td></tr> <tr><td>7</td><td>東京都栄養士会足立支部</td></tr> <tr><td>8</td><td>足立区多機能サービス連絡会</td></tr> <tr><td>9</td><td>地域包括支援センター</td></tr> </tbody> </table> <p><b>3 令和4年度実施結果について</b></p> <p>(1) 医療・介護スキルアップ研修</p> <p>ア 開催日時 令和4年9月14日（水） 19時～21時</p> <p>イ 開催方法 オンライン（Webex）</p> <p>ウ 研修テーマ・講師 「新型コロナウイルスの現状等について」 阿部メディカルクリニック 阿部 聡 院長 「ウイルス・ワクチンの基礎、接し方等について」 博慈会感染症制御室 田島 剛 室長</p> <p>エ 視聴回数 160回</p> <p>(2) 多職種連携研修会</p> <p>ア 開催回数 区内5ブロック 各1回</p> <p>イ 開催結果</p>	団体名		1	足立区医師会	2	足立区歯科医師会	3	足立区薬剤師会	4	足立区介護サービス事業者連絡協議会	5	東京都柔道整復師会足立支部	6	あだちPOSネットワーク ※ POS・・・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士	7	東京都栄養士会足立支部	8	足立区多機能サービス連絡会	9	地域包括支援センター
団体名																					
1	足立区医師会																				
2	足立区歯科医師会																				
3	足立区薬剤師会																				
4	足立区介護サービス事業者連絡協議会																				
5	東京都柔道整復師会足立支部																				
6	あだちPOSネットワーク ※ POS・・・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士																				
7	東京都栄養士会足立支部																				
8	足立区多機能サービス連絡会																				
9	地域包括支援センター																				

ブロック	日時・場所	内容	参加者
千住	10月5日(水) 19時～21時 梅田地域学習 センター	「多職種を知り、千住 エリアでの今後の連携 について考える」  ミニレクチャー 長寿社会を女性視点 で解説 「百寿者、介護、女性 疾患」	53人
中部	10月12日(水) 19時～21時 ギャラクシティ	「多職種とどのような 連携ができるか」  職種紹介プレゼンテー ション	62人
東部	10月26日(水) 19時～21時 勤労福祉会館	「多職種とどんな連携 ができるか～職種別プ レゼンテーションを踏 まえて～」  職種紹介プレゼンテー ション	36人
西部	11月16日(水) 19時～21時 ギャラクシティ	「多職種とどのような 連携ができるか」  職種紹介プレゼンテー ション	62人
北部	11月30日(水) 19時～21時 竹の塚地域学習 センター	「多職種を知り、北部 エリアでの今後の連携 について考える」  ミニレクチャー 「多職種連携による高 齢者のフレイル予防」	50人

#### 4 今後の方針

多職種間の連携を深めていくため、各団体間の連絡・調整を丁寧に進めたいと、研修内容等を決定していく。また、5ブロック全体での研修会を開催し、ブロックごとの連携事例を共有していく。

令和5年6月14日

件名	令和4年度認知症施策の実施結果について																												
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課																												
内容	<p>令和4年度認知症施策の実施結果について報告する。</p> <p><b>1 目的</b></p> <p>認知症本人や家族の意思が尊重され、認知症になっても住み慣れた地域で暮らし続けられるよう、地域で支える人材育成や普及啓発などに重点をおき認知症ケア推進事業を実施した。</p> <p><b>2 令和4年度実施結果</b></p> <p>(1) 認知症サポーター養成講座</p> <p>各地域包括支援センターにて、国で定める「認知症サポーター養成講座実施マニュアル」に基づき、年3回以上開催した。</p> <p>認知症サポーター数実績（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>受講者数</td> <td>1,045</td> <td>898</td> <td>1,699</td> </tr> <tr> <td>累計</td> <td>31,359</td> <td>32,257</td> <td>33,956</td> </tr> </tbody> </table> <p>(2) もの忘れ相談事業</p> <p>足立区医師会のもの忘れ相談医が、相談者からの相談に応じており、各地域包括支援センターにて年4回実施した。</p> <p>もの忘れ相談事業実施実績（人）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談者数</td> <td>201</td> <td>181</td> <td>241</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 認知症初期集中支援推進事業</p> <p>認知症の早期診断・早期対応に向けた支援体制を構築することを目的として、認知症の人やその家族に早期に関わる「認知症初期集中支援チーム」を配置して事業を実施した。</p> <p>認知症地域支援推進員が受けた相談件数（件）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>年度</th> <th>2年度</th> <th>3年度</th> <th>4年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>相談件数</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> </tbody> </table>	年度	2年度	3年度	4年度	受講者数	1,045	898	1,699	累計	31,359	32,257	33,956	年度	2年度	3年度	4年度	相談者数	201	181	241	年度	2年度	3年度	4年度	相談件数	3	3	3
年度	2年度	3年度	4年度																										
受講者数	1,045	898	1,699																										
累計	31,359	32,257	33,956																										
年度	2年度	3年度	4年度																										
相談者数	201	181	241																										
年度	2年度	3年度	4年度																										
相談件数	3	3	3																										



(4) 認知症アウトリーチ事業

地域包括支援センターが支援困難な事例について、区に配置された認知症支援コーディネーターと、認知症疾患医療センターとして東京都が指定している医療法人社団大和会大内病院の認知症アウトリーチチームが、早期の診断につなげ、適切な医療・介護サービスに結び付ける事業を実施した。

認知症支援コーディネーターが受けた相談件数（件）

年度	2年度	3年度	4年度
相談件数	51	49	106

## 令和5年度 第1回地域包括ケアシステム推進会議

令和5年6月14日

件名	令和4年度認知症月間の取組結果について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課
内容	<p>新型コロナウイルス感染症流行により、令和2年度、3年度と中止していた「認知症月間」の令和4年度の取組について報告する。</p> <p><b>1 実施概要</b></p> <p>(1) 日時 令和4年9月1日(木)～9月30日(金)</p> <p>(2) 実施内容 パネル・ポスターの展示及びリーフレットの配架、ミニイベントの実施</p> <p>(3) 実施場所 ア イトヨーカドー系列 6店舗 イ 区内認知症に関わる薬局や介護事業所等 20か所 ウ 図書館 全15か所 エ ポスター、リーフレットの展示、配架 19,410か所</p> <p>(4) 実施結果 別紙参照</p> <p><b>2 今後の方針</b></p> <p>40・50歳代の区民に身近な場所で、認知症の正しい知識に基づき早めの備えに取組、社会資源を知る機会となるよう、引き続き普及啓発を実施していく。</p>

## 9月「認知症月間」の取り組み実施報告

9月21日の「世界アルツハイマーデー」に合わせて「認知症月間」の取り組みを行った。  
 今年度は、外出時に目に触れて、手に取ってもらうPR展開、新型コロナウイルス感染症の流行如何にかかわらず必ず外出するスーパーで40～50代をターゲットに1か月間買い物ついでに知ることができるアウトリーチ展開を実施し、身近な地域で気軽に参加できるミニイベント、アリオ西新井で「脳活フェスタ」を開催した。

### 1 実施概要

- (1) 日時：令和4年9月1日（木）～9月30日（金）
- (2) 実施内容：パネル、ポスターの展示及びリーフレットの配架、ミニイベントの実施
- (3) 実施場所：イトーヨーカドー系列 6店舗  
 区内認知症に関わる薬局や介護事業所等 20か所  
 図書館 全15館、地域包括支援センター  
 ポスター、リーフレットの展示、配架 1,392か所
- (4) 実施結果：リーフレット配布数 19,410枚  
 ミニイベントの参加者 439名（R3年度224名）

### 2 PR展開

- (1) パネル展示、リーフレットの配架  
 イトーヨーカドー系列各店舗では、場所の決定等、店舗担当者様の多大なご協力により1か月間の展示、配架を実施した。  
 すべての店舗でサッカー台にチラシを配架し、アリオ西新井店ではサッカー台近くの特設ラックに認知症予防レシピ「らく・うまごはん」の配架をしていただいた。  
 その結果、駅スタンドや事業所での配架とあわせて約19,500枚のリーフレットを買い物に来た方にお持ち帰りいただいた。

配架場所	配布数	配架リーフレット														
		イベントチラシ	ながら脳活で認知症予防	地域包括支援センター利用案内	認知症なび・あだち	らく・うまごはん	40代・50代のあなたが気になる	「コロナ禍の今、やってほしいこと」	知って安心認知症	オーラルフレイル予防編	認知症の人と家族のための避難所での支援ガイド	よりよい暮らしガイド	認知症とともに生きる希望宣言	健康寿命をのばす100の活動	チエックシート	
イトーヨーカドー	アリオ西新井	6,124枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	綾瀬	892枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	竹の塚	1,054枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヨークフーズ	梅島	592枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
	千住	909枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ヨークプライス	西新井	1,013枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
駅スタンド		1,698枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
ミニイベント実施事業所、足立成和信用金庫、図書館、郵便局、銭湯		2,453枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
三師会、地域包括支援センター		4,675枚	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
計		19,410枚	9,723	1,261	1,224	344	2,973	493	476	840	370	181	44	160	256	1,065



- (2) SNSによる発信  
 ア 9月の月間中 Twitter、Facebook を毎日投稿  
 イ Aメール（9/1 認知症月間、9/21 世界アルツハイマーデーに配信）
- (3) 公式ホームページ  
 ポスター、リーフレットにQRを掲載した結果、閲覧数が前月比で2倍以上になった。

	2022年8月 ページビュー数	2022年9月 ページビュー数	前月比
認知症サポーター養成講座	185	404	+2.18
ながら脳活で認知症予防	58	162	+2.79
脳を生きいき！9月は認知症月間（*8/10公開）	364	865	+2.38

- (4) その他のPR
  - ・ビュー坊テレビ、オリパラサイネージ放映
  - ・あだち広報 8月25日号
  - ・図書館全15館で特設棚の設置
  - ・ヨークプライス レシート一言印字
  - ・食品売り場で認知症予防の食品紹介
  - ・アリオ西新井店内トイレ9か所にアウトリーチ展開への誘導ポスター掲示
  - ・店内休憩スペースの椅子への脳トレ掲示
  - ・地域包括支援センター機関誌に月間PR記事掲載

### 9月は認知症月間 ▲足立区

9月21日の「世界アルツハイマーデー」にちなみ、月間を通じて、区内イトーヨーカドー（アリオ西新井・竹の塚・綾瀬）、ヨーク（西新井・梅島・千住）計6店舗、地域包括支援センター、介護事業所などの40カ所以上で、認知症に関するイベントを開催します。併せて、認知症関連リーフレットも1ヶ月間、配架します。

＼主なイベント案内／

- アリオ西新井で健康ウォーク&クイズラリー  
9月17日（土）から28日（水）まで 豪華景品あり
- アリオ西新井・イトーヨーカドー 竹の塚店等で医療・介護の専門職による認知症相談
- イトーヨーカドー（アリオ西新井・竹の塚・綾瀬）で花王株式会社的美容部員によるスキンケア・メイクアドバイス  
他にもイベント盛りだくさん！

くわしくはリーフレットまたは区のホームページをご覧ください。\*8月以降、配布・公開予定■配布場所＝地域包括支援センター／(区)地域包括ケア推進課■問先＝(区)地域包括ケア推進課 認知症施策推進担当 ☎3880-5953



### 3 R4年度の新たな取り組み

#### (1) リーフレット「らく・うま ごはん」の作成

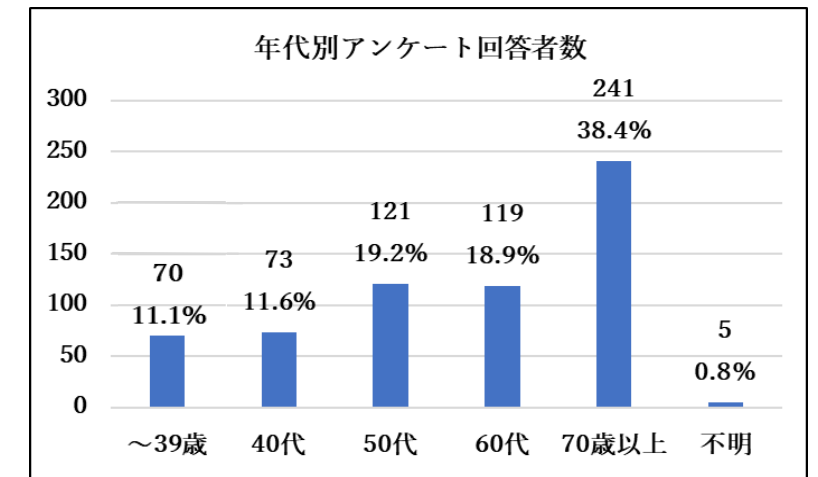
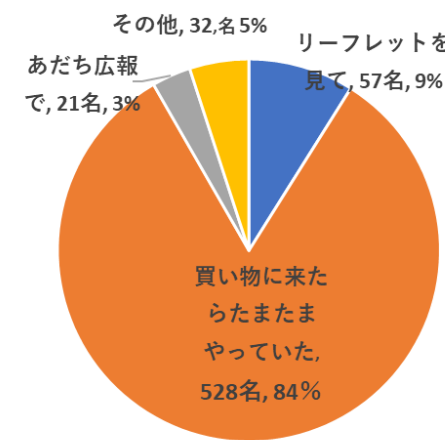
今年度は、衛生部「あだちベジタライフ」と「脳活」がコラボし、リーフレット「よく噛んで+野菜等を食べて=認知症予防 らく・うま ごはん」を作成した。イトーヨーカドー系列全店舗のサッカー台等に配架し、多くの方に配布できた。

#### (2) 「ベジチェック（推定野菜摂取量の測定）」及び管理栄養士による相談コーナーの実施

イトーヨーカドー系列各店舗でカゴメ株式会社の「ベジチェック」を実施した。1,747名の幼児から高齢者までの多くの区民が測定した。その結果、一日野菜摂取量が350g以上の方が16%、350gに満たない方が74%にであった。野菜摂取量が不足している方には、不足分の野菜の摂取方法について管理栄養士が個別指導を実施した。同時に、よく噛むことと認知症との関係についても説明を行った。



何をご覧になって来ましたが



### 5 ミニイベントの実施

身近な地域で参加できるミニイベントを下記のとおり実施した。

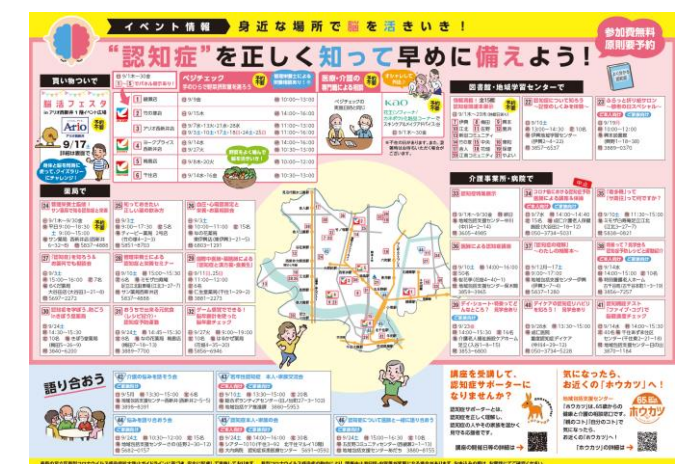
#### (1) 実施事業所数：39事業所

(病院、薬局、介護事業所、地域包括支援センター等)

#### (2) 参加者：439人

〈内訳〉

- ア 正しく知って、早めに備える：33事業所 124人
- イ 語り合う：4事業所 26人
- ウ 認知症サポーター養成講座：22事業所 289人



### 4 アウトリーチ展開

#### (1) 地域包括支援センター出張相談コーナー

ターゲットである40~50代の方が、認知症に対する正しい理解に基づき、早めの備えに取り組む機会にすることで、将来家族を介護する立場になる人が、資源を知る機会にすることを目的にアウトリーチ展開を実施した。

今年度はイトーヨーカドー3店舗、ヨークプライス1店舗で計13日間、感染予防対策を行い実施した。

#### (2) アンケート結果

スタッフによる声掛けにに応じてくださった629人にアンケートを実施した。

##### ア 来場理由

買い物に来たらたまたまやっていたという人が、84%を占め、当初の狙いである買い物ついででの偶然の出会いがほとんどであった。

##### イ 来場者年代

年代別では、ターゲットとした40~50代が30.8%で全体の1/3であった。すべての年代で見ると70歳未満が60%で、比較的若い世代に認知症予防のPRをすることができた。



### 6 今後に向けて

- (1) 今年度は新型コロナウイルス感染症流行の動向が不透明であったが、多くの事業所が「人が滞留しない」「講座は少人数で」という区の方針をご理解いただき、協働して実施することができた。
- (2) 「脳活フェスタ」「認知症月間の取組」を開始して5年になるが、参加事業所、人数とも増え、「身近な地域で認知症の正しい情報を得る」ことが徐々に浸透していることを、区民の声を聞き実感している。しかし、日々の地域包括支援センターの活動からは実感がない。より「身近な地域で」情報を得られる工夫が必要である。
- (3) 今後も継続して実施し、この動機づけが行動変容につながるよう実施方法等検討し、継続していきたい。

件 名	<p><b>あたまの健康度測定（認知症検診推進事業）の進捗状況と今後について</b></p>																				
所 管 部 課	<p>福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課</p>																				
内 容	<p>令和 4 年度「あたまの健康度測定<sup>※1</sup>（認知症検診推進事業）」の集団検診の実施結果と令和 5 年度のスケジュールについて報告する。</p> <p>※1 あたまの健康度測定とは、区内在住の 70 歳の方を対象に、「自分でできる認知症の気づきチェックリスト」や認知機能検査等をふまえて医師が問診を実施し、認知機能低下の疑いの有無を判定する事業です。</p> <p><b>1 令和 4 年度集団検診の実施内容と結果</b></p> <p>(1) 日程 令和 5 年 3 月 7 日（火）、8 日（水）</p> <p>(2) 場所 シアター 1010 11 階ギャラリー</p> <p>(3) 対象 令和 4 年度に 70 歳を迎えた方 (昭和 27 年 4 月 1 日～昭和 28 年 3 月 31 日生まれの方)</p> <p>(4) 募集人員 150 人</p> <p>(5) 内容 問診、認知機能検査等</p> <p>(6) 検診結果</p> <p>ア 検診案内発送数、申込者数、受診者数</p> <table border="1" data-bbox="502 1115 1457 1357"> <thead> <tr> <th></th> <th>発送数</th> <th>申込者数</th> <th>受診者数</th> <th>受診率 (受診者数/発送数)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>男性</td> <td>3,549</td> <td>75</td> <td>70</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>女性</td> <td>3,567</td> <td>84</td> <td>71</td> <td>2.0%</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>7,116</td> <td>159</td> <td>141</td> <td>2.0%</td> </tr> </tbody> </table> <p>イ 判定結果</p> <p>「認知機能低下の疑いなし」 122 人（86.5%）</p> <p>「認知機能低下の疑いあり」 19 人（13.5%）</p> <p>ウ 医療機関連絡票、伴走支援制度<sup>※2</sup>連絡票発行数</p> <p>「認知機能低下の疑いあり」と判定された人は、検診当日に問診を担当した医師がかかりつけ医がいるかを確認し、かかりつけ医ありの 18 人に医療機関連絡票を発行した。また、伴走支援制度の利用を希望した人は 4 人（かかりつけ医あり 3 人、かかりつけ医なし 1 人）であった。</p> <p>※2 伴走支援制度とは、「あたまの健康度測定（認知症検診推進事業）」で、認知機能低下の疑いがあると判定された人を対象に行う検診後の支援制度です。医療保険・介護保険対象外の足立区独自の事業で、区から委託を受けた看護師がご自宅への訪問や電話により、認知症への備えと理解を促し、在宅生活を継続するための支援を行います。</p>		発送数	申込者数	受診者数	受診率 (受診者数/発送数)	男性	3,549	75	70	2.0%	女性	3,567	84	71	2.0%	計	7,116	159	141	2.0%
	発送数	申込者数	受診者数	受診率 (受診者数/発送数)																	
男性	3,549	75	70	2.0%																	
女性	3,567	84	71	2.0%																	
計	7,116	159	141	2.0%																	

## 2 令和5年度集団検診、個別検診の概要

### (1) 令和5年度に71歳を迎える方

(昭和27年4月1日～昭和28年3月31日生まれの方)

ア 集団検診 前記1のとおり実施済み

イ 個別検診の実施

① 検診日程 令和5年5月22日(月)～8月31日(木)

② 実施場所 区内指定医療機関(48か所)

③ 募集人数 150人

④ 実施内容 医師による問診、認知機能検査、結果説明

ウ 伴走支援制度の実施

支援日程 令和5年5月初旬～(最長6か月)

### (2) 令和5年度に70歳を迎える方

(昭和28年4月1日～昭和29年3月31日生まれの方)

ア 集団検診の実施

① 検診日程 令和5年7月8日(土)、9日(日)

② 実施場所 シアター1010 11階 ギャラリー

③ 募集人数 200人

イ 個別検診の実施 前記2(1)イと同様に実施

ウ 伴走支援制度の実施

支援日程 令和5年8月中旬～(最長6か月)

## 3 今後の方針

「認知機能低下の疑いあり」と判定された人への伴走支援制度によるフォローと同時に、認知症地域支援推進員<sup>※3</sup>や各地域包括支援センターと連携し、継続的に支援していく。

※3 認知症地域支援推進員とは、認知症本人及びその家族の抱える問題を総合的に支援し、医療と介護の連携と各地域包括支援センター全体の認知症対応力の向上を推進しています。

件名	地域包括支援センター支援システムの本稼働の開始について
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 地域包括ケア推進課
内容	<p>区と区内25か所の地域包括支援センター（以下「ホウカツ」という。）を専用回線ネットワークで結ぶ、地域包括支援センター支援システムの本稼働を令和5年5月11日に開始したので報告する。</p> <p><b>1 システムを使用する地域包括支援センター・所属</b></p> <p>(1) 25か所の全ホウカツ  (2) 庁内関係所管（4課）  地域包括ケア推進課、高齢福祉課、介護保険課、絆づくり担当課</p> <p><b>2 主な機能</b></p> <p>(1) 総合相談記録の入力・参照機能  (2) 光回線（VPN※）による専用回線ネットワーク  ※ 仮想的な専用線により拠点間を接続するネットワーク  (3) 介護保険システムとのデータ連携  (4) 区とホウカツが使用するファイル共有サーバー  (5) USBによるデータの持ち出し制限  (6) 専用ソフトによる統計的分析</p> <p><b>3 本稼働後2週間（5月25日まで）の稼働状況</b></p> <p>(1) ホウカツ営業日の1日当たりの平均ログイン回数  約220回  ※ 個人が複数回ログインした場合も全てカウントした回数  (2) ホウカツからの問い合わせ状況  ア 地域包括ケア推進課宛 1日当たり平均20件  イ コールセンター宛 1日当たり数件  ウ 主な問い合わせ内容  ① 月報の提出方法について  ② 介護予防ケアマネジメント及び請求業務の入力について  (3) 不具合等の発生状況 特になし</p> <p><b>4 導入後の効果</b></p> <p>(1) 区とホウカツの円滑な情報共有による業務効率化と確実性の向上  (2) 区による相談記録等の情報管理（高齢者の転居やホウカツ受託法人の変更等が生じて影響を受けない体制の構築）  (3) USB手渡しの廃止、ログイン時の静脈認証等によるセキュリティの向上</p>

件名	エンディングノート（じぶんノート）の作成について																		
所管部課	福祉部 高齢者施策推進室 高齢福祉課																		
内容	<p><b>1 「じぶんノート」のコンセプト</b></p> <p>(1) 人生の終わりに向けて、残された人のための覚書としてだけではなく、どんな時にも自分の意思が尊重されるための意思決定表明の手段として、さまざまな福祉サービスの提供方針決定の際にも活用できるツールとなる。</p> <p>(2) 書くことを通じて、家族等とのコミュニケーションのきっかけとなり、相談ができる。</p> <p><b>2 従来品と「じぶんノート」の比較</b></p> <table border="1" data-bbox="453 860 1436 1704"> <thead> <tr> <th></th> <th>旧エンディングノート</th> <th>じぶんノート</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>主体者</td> <td>記入者が家族等のことを考えて書く</td> <td>記入者が、自分自身のために書く</td> </tr> <tr> <td>目的</td> <td>終活の一環。残された者のための覚書</td> <td>社会福祉施策の運営における意思決定支援のツールを兼ねる</td> </tr> <tr> <td>イメージ</td> <td>人生の終わりに向かっているという負の印象</td> <td>やりたいことや、これからの夢など、自身の望ましい将来を想定できる</td> </tr> <tr> <td>記入項目</td> <td>財産、葬儀、お墓等に関わる一般的な事項</td> <td>足立区の地域性や福祉需要等を踏まえた事項。必要な情報を追加</td> </tr> <tr> <td>記入環境</td> <td>記入者のみ、または家族と相談するなど</td> <td>地域包括支援センター、ケアマネジャー等の支援を受けられる</td> </tr> </tbody> </table> <p><b>3 作成部数と配布方法</b></p> <p>(1) 令和5年5月に5,000部を作成し、高齢福祉課、地域包括支援センター、権利擁護センターあだち、区民事務所で配布。</p> <p>(2) 令和5年8月に5,000部を増刷予定</p>		旧エンディングノート	じぶんノート	主体者	記入者が家族等のことを考えて書く	記入者が、自分自身のために書く	目的	終活の一環。残された者のための覚書	社会福祉施策の運営における意思決定支援のツールを兼ねる	イメージ	人生の終わりに向かっているという負の印象	やりたいことや、これからの夢など、自身の望ましい将来を想定できる	記入項目	財産、葬儀、お墓等に関わる一般的な事項	足立区の地域性や福祉需要等を踏まえた事項。必要な情報を追加	記入環境	記入者のみ、または家族と相談するなど	地域包括支援センター、ケアマネジャー等の支援を受けられる
	旧エンディングノート	じぶんノート																	
主体者	記入者が家族等のことを考えて書く	記入者が、自分自身のために書く																	
目的	終活の一環。残された者のための覚書	社会福祉施策の運営における意思決定支援のツールを兼ねる																	
イメージ	人生の終わりに向かっているという負の印象	やりたいことや、これからの夢など、自身の望ましい将来を想定できる																	
記入項目	財産、葬儀、お墓等に関わる一般的な事項	足立区の地域性や福祉需要等を踏まえた事項。必要な情報を追加																	
記入環境	記入者のみ、または家族と相談するなど	地域包括支援センター、ケアマネジャー等の支援を受けられる																	